

メッセージアウトライン

ヨハネ14：4~11「道、真理、いのち」

イエスは「わたしの行く道はあなたがたも知っています」(4)と言われたが、弟子のトマスは、「主よ。どこへいらっしゃるのか私たちにはわかりません。どうして、その道が私にわかりましょう」(5)と尋ねた。彼はわからないことはわからないとはっきり言うタイプの人間であったようである。これにたいしてイエスは驚くべきことを語られた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません」(6) 人間の歴史を通してこのようなことを言った者はイエス以外誰もいない。これはイエスがどういうお方かをはっきりと教えているところである。「道」とは人が歩むべき正しい道であり、真の神に到達する方法、手段を意味することばである。「真理」とは偽らない事実、本当のこと、不純のない純真、変化も嘘も誤りもないことなどの意味が含まれる。「いのち」とはしばらく現れてやがて消えていくようなはかないいのちではなく、すべてのいのちの源、人に永遠のいのちを与えることのできるいのちそのもののお方という意味。→ヨハ14,5:24~25

このような意味でイエスは道であり真理でありいのちなのである。それゆえ、誰もこのイエスによらないでは救いも真理も悟ることができず、永遠のいのちも得ることができず、父なる神のみもとに行くこともできない。

「あなたがたは、もしわたしを知っていたなら、父をも知っていたはずですが。しかし、今や、あなたがたは父を知っており、また、すでに父を見たのです」(7)

ここではイエスを知るということは父なる神を知ることであり、それならばイエスを知ることになった弟子たちは父を知っており、また父を見たのだとイエスは言われるのである。ピリポはイエスのことばの意味が分からなかった。それで、「私たちに父を見せてください」(8)と質問した。これに対してイエスは、「わたしを見た者は、父を見たのです」(9)と言われた。人はこのイエスを見ることによって、神がどのようなお方かを知ることができるのである。今日の私たちも神のことばである聖書を読むことによってイエスについてどのようなお方かを知ることができ、それによって神がどのようなお方であるかを知ることができる。「わたしが父におり、父がわたしにおられることを、あなたは信じないのですか。わたしがあなたがたに言うことばは、わたしが自分から話しているものではありません。わたしのうちにおられる父が、ご自分のわざをなしておられるのです」(10)イエスはここでイエスのうちにおられる父が、イエスを通してご自分のわざをしておられる事実をピリポに悟らせようとされている。

「わたしが父におり、父がわたしにおられるとわたしが言うのを信じなさい。さもなければ、わざによって信じなさい」(11) イエスはことばだけで信じることができなければ、イエスが行われたさまざまな力あるわざ(奇蹟)によって信じなさいと言われた。神の国はことばではなく、力にある。(I コリント4:20)

イエスこそ道であり、真理であり、いのちであるただ一人のお方である。このお方でなければ、私たちの罪は解決されず、救われない。またこのイエスこそ父なる神と完全に一致している子なる神である。私たちはこのイエスを通して、神とはどのようなお方かということを知ることができるのである。この神は愛とあわれみに満ちたお方である。

ウェストミンスター信仰告白第2章

「神について」

1. ただひとりの、生ける、まことの神がおられるだけである。彼は、存在と完全さにおいて無限であり、最も純粋な霊であり、見ることができず、からだも部分も欲情もなく、不変、遍在、永遠でとらえつくことができず、全能であって、最も賢く、もっともきよく、最も自由、最も絶対的で、ご自身の不変な最も正しいみ旨の計画に従い、ご自身の栄光のために、すべての物事を営み、最も愛とあわれみと寛容に満ち、善・真実・不義や違反や罪をゆるすことにおいて豊かで、熱心に彼を求める者たちに報いるかたであり、そのさばきにおいてはもっとも公正で恐ろしく、すべての罪を憎み、とがある者を決してゆるさないおかたである。

(申命記6:4, I コリント8:4,6, I テサロニケ1:9,エレミヤ10:10,ヨブ¹ 11:7~9,26:14, ヨハネ4:24, I テモテ1:17, 申命記4:15, ヨハネ4:24, ルカ24:39, 使徒14:11,15, ヤコブ² 1:17, マラキ3:6, I 列王8:27, エレミヤ23:23,24, 詩篇90:2, I テモテ1:17, 詩篇145:3, 創世記17:1, 黙示録4:8, ローマ16:27, イザ³ヤ6:3, 黙示録4:8, 詩篇115:3, 出3:14, エペ⁴ソ1:11, 箴言16:4, ローマ11:36, I ヨハネ4:8,16, 出34:6,7, ヘブル11:6, ネミヤ9:32, 33, 詩篇5:5,6, ネミヤ1:2,3, 出34:7)

2. 神はご自身のうちに、おんみずからすべての命、栄光、善、祝福をもっておられ、ご自身だけで、またご自身にとって全く充足しておられ、彼が造られたどの被造物をも必要とせず、それらから何の栄光を得てくることもなく、ただご自身の栄光を、それらの中に、それらによって、それらに対して、またそれらの上に表される。彼は、すべての存在の唯一の源であって、万物は彼から出、彼によって成り、彼に帰する。彼は、ご自身よしとされることを何事でも、万物によって、万物のために、万物の上に行なうために、万物を最も主権的に支配される。彼の目には万物も歴然とあらわであり、彼の知識は無限無謬で、被造物に依存しないので、何ひとつとして、彼には偶然や不確かなものがない。彼は、そのすべての計画、すべてのみわざ、すべての命令において最もきよい。彼には、み使い、人間、その他あらゆる被造物が彼に要求することをよしとされるどのような礼拝・奉仕・服従も、当然払われなければならない。

(ヨハネ5:26, 使徒7:2, 詩篇119:68, I テモテ6:15, ローマ9:5, 使徒17:24,25, ヨブ⁵ 22:2,3, ローマ11:36, 黙示録4:11, I テモテ6:15, ダニエル4:25,35, ヘブル4:13, ローマ11:33,34, 詩篇147:5, 使徒15:18, エゼ⁶キエル11:5, 詩篇145:17, ローマ7:12, 黙示録5:12~14)